

資料2 病弱特別支援学校特別支援教育コーディネーター活動表

| | 病弱特別支援学校内 | 医療との連携 | 保護者への支援 | 小中学校への支援 | 児童生徒への支援 | 外部機関との連携 |
|---|---|---|---|--|--|--|
| 転入時 | 担任、学部職員とのアセスメント(校内チーム) | 医師・看護師との連絡・調整 | 保護者からの相談対応① | 担任同士の引き継ぎをサポート | 入院生活や学校生活に関する相談対応 | G-NET会議への参加 |
| | 多角的な実態把握と指導計画立案のために、ブレインストーミング法を導入する。 | 今後の医療との連携がスムーズに行えるよう、メンバー構成を検討する。 | 担任だけでなくチームでの支援を行うことを理解してもらうために、第三者として現在に至るまでの様子について聴取し、悩みを共有する。併せて学校・医療機関への要望を聞き取り、支援について意見交換を行う。 | 特別支援教育コーディネーター・養護教諭等との連絡 | 児童生徒の多様化に対応するため、教育相談係と連携しながら特性に応じた相談体制を検討する。 | 他機関(特別支援学校・市町村教育委員会・児童相談所・発達障害者支援センター・総合教育センター等)との連絡調整 |
| | | 医療側の多忙さに配慮し、時間や場所を検討する。 | | 児童生徒が退院後にスムーズに復学できるように、必要な支援者とあらかじめ連絡をとっておく。 | | 多角的な実態把握のため、これまでの連携機関の有無を保護者や担任から聞き取る。 |
| | 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成をサポート | 看護師と生活目標やかかわり方について検討 | | 担任とともに在籍中の子どもへのチーム支援を検討 | | すでにある場合には保護者の了解のもと連絡をとり、情報を収集する。 |
| | 短時間で、より適切な指導計画を作成するため、複数メンバーで検討を行う。 | 学部での実態把握をもとに児童生徒の特性等について伝え、病棟・学校での生活目標を確認し合う。 | | 担任と一緒に学校行事等を確認し、今後の対応をお願いすることで、今後の依頼等について検討できるようにする。 | | 集めた情報をもとに対象児の生活地図を作成し、担任へ提供する。 |
| | 各教科担当が役割確認を行えるように、作成メンバーを構成する。 | | | | | |
| <p>支援会議の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> メンバー構成、時期を担任と検討し、各関係者との調整を図る。 それぞれの参加者の立場を考慮し、良好な関係が保たれるよう配慮しながら、中立的立場で会議に参加する。 批判をしない会議を行うよう進行に配慮する。 | | | | | | |
| 在籍中 | 学校・生活両面における児童生徒の様子の情報交換会・支援会議の実施 | 医師・看護師との情報交換 | 保護者からの相談対応② | 入院中の子どもの様子を前籍校へ伝える(交流) | 学習や行動面に課題がある場合は支援 | 他機関との連絡調整 |
| | 【支援会議での工夫】 短時間で多くの情報、アイデアを収集し、それぞれの教員が指導に生かせるように、ブレインストーミング法、KJ法などの手法を導入し、ファシリテーターとしての役割を担う。 学部全体のチーム意識を高めるために、かかわりの少ない教員の客観的 | 病棟での児童生徒の様子について、情報を収集し、担任に伝える。 | 学校・病棟での生活について、保護者の意見を聞き、必要に応じて支援会議を開く。 | 前籍校担任やクラスの子どもたち入院中も意識を持ってもらえるよう、本人や保護者の希望に応じて、ビデオレター・メール・手紙等で交流を図れるよう調整する。 | 実態把握の情報をもとに支援方法を具体化し、必要に応じて T・Tなどで直接支援を行う。さらにそれを「個別の教育支援計画」「個別の指 | 多角的な実態把握のため、これまでの連携機関の有無を保護者や担任から聞き取る。すでにある場合には、保護者の了解のもと連絡を |

在籍中

| | | | | | |
|---|--|--|---|--|---|
| 意見を取り入れる。 | | | | 導計画」に反映させる。 | とり、情報を収集する。 |
| ・活発な意見交換ができるように、出た意見を肯定的に受け止めた上で、理論的な補足を加えるようにする。 | 学校での様子を医療スタッフに伝える。 | | | | 関係機関との連携を深めるために、必要に応じて実際に訪ねて担当者とお話しておく。 |
| ・教員一人一人が検討会に充実感を持ち、指導へ生かせる実感を持てるようにするため、それぞれの意見を具体的場面に結びつけるような補足を加える。 ・教員一人一人の達成感に結びつくよう、個々の気づきを取り上げ支援のヒントとする。 | 病棟での児童生徒へのかかわりに生かしてもらえよう、学校での支援のヒントから、病棟での支援に生かせそうな事項を選択して伝える。 | | | | 必要に応じて支援会議等に出席していただけるように調整を図る。 |
| 担任へのサポート | MSW(医療ソーシャルワーカー)との情報交換 | 保護者からの相談対応② | 学習進度の調整 | 転出後の生活上注意すべき事項の確認 | G-NET会議での事例検討 |
| 日常の指導について相談を受け、学部で協議する必要がある場合は、会議の開催について調整を行う。 | ソーシャルワーカーとともに地域資源を整理する。 | 転出後の地域資源について必要に応じて保護者への情報提供を行い、希望に応じてMSWへつなぐ | 転出を見据えながら学習進度の確認を行い、調整していく。特に学校行事等に関係する場合は早めに調整を図る。 | 担任とともに自立活動において、前籍校での生活を考えた注意事項を確認を行う。 | G-NETメンバーで支援の方法や支援のためのネットワーク作りについて検討を行う。 |
| MSWの情報やリソースマップをもとに対象児独自のリソースマップを提案し、「個別の教育支援計画」に反映させる。 | 個々のリソースマップを作成する。 | | | | |
| 「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」の修正サポート | 治療と学校行事等との調整 | 退院後の学校生活に関する相談対応 | 受け入れに関する不安事項についての相談 | 退院後の学校生活に関する相談対応 | |
| 支援会議等の結果を踏まえ、随時「個別の指導計画」を担任とともに修正していく。必要に応じて学部会で指導方針等を確認し合う。 | 入院生活が長い子どもにとって学校行事への参加は心理的安定につながる場合が多いため、できるだけ行事への参加ができるように、保護者の希望のもと、治療計画との調整を図る。 | 転出後の不安事項を担任とともに聞き取り、対応を検討する。 | 担任を中心に受け入れに関して不安な事項を聞き取り、事前に対応を考え、提案できるように準備する。 | 児童生徒の不安軽減のために、退院後の生活を想定した話し合いを行い、具体的な対応について保護者や担任と検討を行う。 | 転出後も医療的なことで配慮が必要である場合、特に医療的ケアにかかわる可能性があることについては、管理職とも相談の上、教育委員会との連携を図る。 |
| 転出に向けて、各関係者の転出後についての意見をまとめ、検討事項を整理する。その結果を「個別の教育支援計画」に反映させる。 | 児童生徒の退院後の前籍校復帰がスムーズにいくように、保護者の希望を踏まえた上で、できるだけ学校行事等を考慮した時期について医療側に伝える。 | 必要に応じて保護者の了解のもと退院の不安を医療側や前籍校に伝えて対応を検討する。 | 転出後も医療的なことで配慮が必要である場合は、養護教諭と連絡を取り合い、対応を検討してもらう。 | | 必要に応じて社会資源の活用を図るため、MSWと協働して他機関と医療者との橋渡しを行う。 |
| | | 必要に応じて社会資源の活用ができるよう、他機関と保護者と | 医療に確認したいこと等を聞き取り、医療スタッフへ伝え | | |

| | | | | | | |
|--|---|---|---|--|---|--|
| | | の調整を行う。 | る。その内容については「個別の教育支援計画」に追加し、小学校等に伝える。 | | | |
| 支援会議の実施 | | | | | | |
| サポート訪問の実施 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・メンバー構成、時期を担任と検討し、各関係者との調整を図る。 ・それぞれの参加者の立場を考慮し、良好な関係が保たれるよう配慮しながら、中立的立場で会議に参加する。 ・批判をしない会議を行うよう進行に配慮する。 | | | | | | |
| 在籍中 | 会議での議論を充実させるため、担任に保護者との事前打ち合わせを依頼し、支援会議で話題にしたいことを聞き取ってもらう。その結果をもとに会議の方向性を担任と検討しておく。 | 医師と事前打ち合わせを行い、会議での役割を確認する。あらかじめ、前籍校からの質問事項を予測し、医師に説明してもらいたいことを話し合っておく。時間がとれない場合は「持ち回り会議」の形式をとる。 | 転出にあたっての具体的な不安事項について整理をし、会議の場で話し合うべきことを打ち合わせる。 | | | |
| | 担任、管理職と事前打ち合わせを行い、それぞれの会議での役割について確認する。 | 前籍校からの質問について、医師にわかりやすいよう補足を加えながら、病状や配慮すべきことについて説明してもらえようにする。 | 一番不安を抱えている保護者の心情に配慮し、心理的負担を感じないよう、進め方について配慮する。保護者が希望を述べやすいよう、発言の機会を意図的につくる。 | 医療側の多忙さを考慮し、前籍校関係者が医療側に直接確認したいことを優先的に話し合う。前籍校関係者が質問しやすい雰囲気作りに努める。 | | |
| | 本校での学校生活において配慮し、今後も有効であると思われる事項について、具体的に説明をする。前籍校の事情等に配慮した発言を心がける。 | | | | | |
| | 転出後の生活についての担任へのサポート | 退院後の児童生徒の様子の共有 | 転出後の生活についての相談対応 | 転出後の生活についての相談対応 | 転出後の生活についての相談対応 | |
| 転出後 | 担任とともに退院後の生活の様子や学校への適応状況等の情報を収集する。 | 退院後の学校での様子などについて医療側へ情報提供を行うとともに、生活制限や行事等への参加の可否などについて医師から伝えてほしいことなどについて情報共有を図る。 | 外来受診時などを利用して退院後の生活や学校での生活について、相談を受ける。保護者の希望があれば、支援会議、サポート訪問等を実施する。 | 転出後も継続して病気の子どもの教育に関する相談を受ける。在籍のあった児童生徒のみでなく、そのほかの病気の子どもの指導についても相談を受ける。指導上不安なことが出てきたり、生活制限などで、判断に迷う場合など保護者の了解のもとに情報提供を行う。 | 転出後の学校生活について不安なことがあれば外来受診時などを利用して、継続して相談に応じる。 | 他機関の関係者と連絡を取り合い、その後の適応状況などについて情報共有を行う。病気に関することについては相談を受ける。 |
| | 保護者の希望を担任が聞き、他機 | 必要が生じれば支 | | サポート訪問が必 | 必要が生じ | |

関へのつながりが必要であれば、連絡・調整を図る。

援会議、サポート訪問のために医療関係者の動きに合わせた日程で調整を行う。

要であれば日程調整を行い、訪問して病気の子どもの教育についても考える。

れば支援会議、サポート訪問のために関係者の調整を行う。

支援会議の実施

サポート訪問の実施

- ・メンバー構成、時期を担任と検討し、各関係者との調整を図る。
- ・それぞれの参加者の立場を考慮し、良好な関係が保たれるよう配慮しながら、中立的立場で会議に参加する。
- ・批判をしない会議を行うよう進行に配慮する。